

主体的な学びを実践する

# 小中学生のための



# 交流サマースクール



東 愛義



学習の時間を集中して取り組む子どもたち、受験勉強や英語、ポーランド語などいま自分が必要だと思う教科に取り組んでいる

今回は、今まで書くことがあ  
りすぎて紹介することが出来な  
かった(基本活動)について説  
明していきたいと思う。  
私たちの朝は6時に始まる。  
ポーランドの夏は日が長く、午  
前4時頃にはもうお天道様が顔  
を出すため、起きたころにはす  
でに昼のような感覚だ。各自、  
朝食を取った後、午前7時から  
9時まで間、机の学習を行う。  
学習時間では自分が取り組みた  
い科目を学習するが、今回は特  
にこちらで必要になってくるで  
あろう英語に力を入れている。  
英語は日本人から厄介者扱いさ  
れやすいが、子どもたちは少  
し違う。英語を使ってコミュニケ  
ーションを取れることが楽しい  
のだから。皆やたらと私に  
How are you?と英語  
で話しかけてくる。日本人同士  
なら日本語でもいいじゃないか  
と思うこともあるが、ちゃんと  
英語で返しつつ、その時の受け  
答えも教える。そうやって毎日  
頃から英語に触れることで着々  
と英語脳が育っていくのだ。



マンダラ森の学校の子供たちと交流する楠学園の子どもたち。共に牧場に行ったら馬を観察し、どういった表情をするのか? 気づいたところを紙に書きだしていく

一番大切なのは興味を持つこと  
これは何に對しても言える事で  
それが「学ぶ」ことの神髄なの  
ではないだろうか?  
学習時間が終わると、牧場の  
手伝いや担当作業が始まる。担  
当作業は馬のボロ拾いやエサや  
り、家の掃除など各作業につ  
き二、三人がローテーションしな  
がら行われる。その後、昼食を  
とり、自主活動の時間に入る。  
自主活動では、その名の通り、  
子どもたちが何をするか自分で  
考えて時間の過ごし方を決めて  
いるので、1日たりとも同じ活  
動内容は無い。そう、自分で何  
かを決定するという事は、自分  
分の行動に責任を持てるという  
ことだ。子どもたちは、この時  
間の中で上手な時間の使い方な  
ど、必要な教養を自分で培っ  
ていく。そして6時ごろから2回  
目の牧場の手伝いを行い、午後  
7時に夕食を取り、その後は各  
自、1日の振り返りや日記、入  
浴した後、明日に備えて眠りに  
つく。私たちはこの基本活動を軸  
にして、村の子供たちとの交流  
会など、様々な活動に取り組ん  
でいる。  
そして、6月18日〜6月21日、

私たちはポーランドにあるフリ  
ースクール、マンダラ森の学校  
との交流会を行った。前にヤノ  
ビチェ・ビエルキエ村の子供た  
ちと交流した時と同様に、最初  
はどちらも恥ずかしがっている  
様子だったのだが、サッカーや  
バレーボールなどをしているう  
ちに、子どもたちはいつの間  
に仲良くなっていた。こうい  
た出来事を見るたびに、やはり  
スポーツとは、国や言葉の違い  
という溝を埋めてくれる、コミ  
ュニケーションツールの一つな  
のだと再確認させられる。また、  
私たちはポーランドに折り紙や  
竹トンボなど、日本のものを  
色々持ってきていたため、それ  
を紹介すると、マンダラの子た  
ちは珍しそうに遊び方や折り方  
を楠学園の子に教えてもらって  
いた。日本の遊びをとて中気  
に入ってくれたらしく、夢中にな  
って遊んでいる姿が本当に楽し  
そうだった。特に最年少のアン  
テイク君は折り紙の手裏剣をえ  
らくお気に召したようで、人に  
投げてはリアクションを見て笑  
っていた。今現在、欲しいもの  
があれば、何でも買うことが出  
来るが、昔はそれが出来なかつ  
た。だが、その代わりに自分の  
知恵を振り絞って、新しい遊び  
を考え出す力を持っていったの  
だ。今では日本の子どもにも忘れ  
られつつある伝統的なおもちゃ  
だが、日本人が生み出した知恵  
の結晶。それをポーランドの子  
供たちに触れてもらうことで、  
なにか良い刺激になっしてくれ

**スケジュール**

6月18日〜21日  
マンダラ森の学校の  
生徒との交流会

6月22日〜6月24日  
マンダラ森の学校の  
生徒宅へホームステイ



マンダラ森の学校の生徒、スタッフとの集合写真。この一週間で得た貴重な経験や築いた絆を忘れることはないだろう。そしてこれからも出会いをくり返し、心身共に大きくなってほしい。

ばと思う。そうして4日間の交  
流も終わり、それから子どもた  
ちは2泊3日で、マンダラの子  
徒の家庭へホームステイをする  
ことになった。最初は初めての  
ホームステイで不安な表情も見  
えたが、3日間いろいろ良くし  
て頂き、親睦もより深まった様  
子。涙の別れの後、みんな「ま  
たホームステイをしたい!」と  
口にしていった。こちらに来てか  
ら、色々なことがあったが、今  
回のことはより色濃く記憶に刻  
まれることだろう。